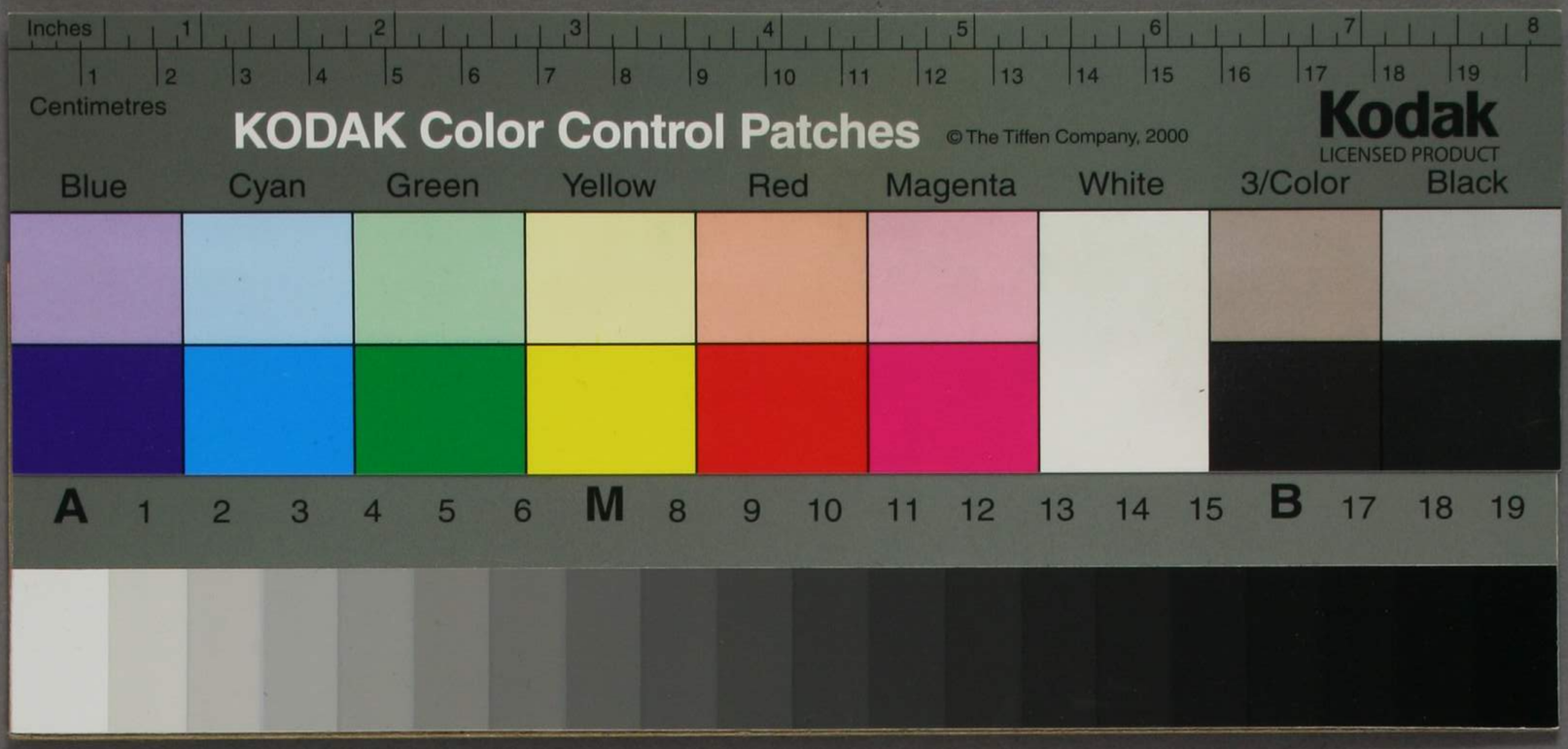

Inches
Centimetres
KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
A
M
B

井10
29969
1

特へ10
2992
1

山崎
文庫

這箇
開第
発一
文
至
極
理
妙
兼
好
法
師
徒
然

行川のながれはたえずして、しかももとの水にあらず。よどみうかぶうたかたは、かつきえかつむすびて、ひさしくとどまりたるためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし。たましきの都の内に、いらかをあらそへる高き賤しきの人の、たれか百年の内をはかる。これを、あすかがの川の流れに、なぞらへていはばいとあだなるたとへなり。知らず、生まれ死ぬる人、いづかたより来りてか、いづかたへか去る。また、知らず、仮の宿り、たがためか心を悩ましてか、目を喜ばしむる。その主と、すみかと、あらそひ争へるさまは、いはばあさがほの露に異なる事なし。或は露落ちて花残れりといへども、なほ、消えがてに、日かたむくまで、或は花しぼみて露なほ、消えずして、朝をまつことあり。

よりまへのこと人さりてば
睦(むつ)き世の中は浅ましきよ
とうして我身のふちせきは
あきらけき　あはのま
たちとどまらぬところあり
いひくは泡のごとくなり
水のあはせの中は常ならず
こゝにあさゆふとは
金剛経(こんがうきやう)夢幻泡影(むげんはうやう)如(ごとし)
露(ろ)亦如電(やくによでん)と說(とか)れたり
むすぶ　おもふのみや
みとめあづかりのちは
りとなるとり
いふかうのことを如
本義(ほんぎ)の云人の世にある
いつも世をうれうて

本とゝろうべへやあはれにあらへ
み人は二三十人の中にも好かれは
とりふかりおなじ元しるなむまう
ふかきゆびの泡よにうけつ。
しばしむすぼれ世のよろこびより来
さらくいのちとかあたべくり乃
やとり彼が為よ煩悩し往ふより
てら月とようくとげもちぞのわざ
としみやとぞみてとかくそれ毛あ数
いそぐ翁がその露よとるかくてお
るは会露も長くも死猶まりかとう

きせぬものとしらへは
とくんとけてくらね
生は也つまつ数ま
れありとちやえありきぬ
来のとへの殊に
むつまつりばかりのれは
堀川百首にも
咲みしいけかざるのあれは
つまの浦りのとこれのでて
いかなる人は二三十人の
中にもつはる一人二人と
白居易(はくきよい)詩云(しにいはく)二十年来(ねんらい)旧詩巻(きうしくわん)十人酬和(しうわ)九人無(なし)
あたまた死して夕にむすまろ
ふるさの 荘子(さうじ)曰朝菌(てうきん)

いへども朝(あした)にうまれ或は死夕がたに
て露(つゆ)と消(きえ)ぬほどと夕(ゆふべ)とまの川
とは凡(およそ)のんとしれぬりしより早
あまりれは云秋と変(かは)らへ世のもの[illegible]
義(ぎ)と見るふとやたしくれぬるも[illegible]
安元(あんげん)三年四月廿八日のよの風えげし
く吹(ふき)くしてつぎらし夜(よ)成のと
きびかり都の西のとより火出来(いでき)て成
あれいろそてへ朱雀門(しゆじやくもん)大極殿(だいごくでん)
宮殿[illegible]有のまくらつりて一夜の程に
灰(はい)と成きゆかへ[illegible]比(ひ)の[illegible]さう

不知晦朔注ニ云朝菌ハ
大芝也亦名日及暮ニ
生見日則死ともいふ
明ハ此注よりて在
中世之名と説ケり
荘子の人ハ名州く
我が文ハ語をとりて人
をしへにふまうつくの文
法なり
あさがほの花ハ朝にさき
ゆふべにはしぼむ
たとへいふとこよふく
ひと日ひと日をおくれば又
の一体なり
ちゞは死ぬるへにてまゝなり
佛書ニ云先生又先生

や病んとやどせりやうり出来けると
うん咲まう風よさうくはりけり称え
わかうとひろげたりくるとへひろにあね
と紙さも家ハ総よむをぺらうさわづりハ
一向ぺのはをはよ咲つけくりぺ雨まハ灰
と吹たくされたびハ光に映じてやまね
くわよう中は風に信ぎてはきられつう窓
とぶうどくけくニ所と鉄川梅行ぺを
中の今川へいのんや或ハ総よむせぞく
たれかつ説ハ実ふまうまて答らまね
小説ぬきハ文字川のよみへげくそもがれ

都不知生生前来
世猶来世全無辨
世世経ト云々
又さるべ うしめのあるを
といひあはれありて云り
りのやどり 李太白
春夜宴桃李園序ニ
日夫天地者萬物之
逆旅光陰者百代之
過客而浮生若夢
そのまゝさしてみいしきた
とあるそれを指いくぐ
親かの宿なてとるを
いくらとかくぬとへでと
いうらん之古今の事ふ
媒介のやとひふくハこ

たゞ天資賤とより出ろにならざて世話
万窮さるぞら灰燼とならにさぞの作
いへりてそぐくぞ此さひろぞの春十六
饒かりまりてきも外ハかてもべをでく
経世ら三分が一まなべりきをて国安死
ねりの教の人ぞ年の物いハ色源と
あらびぺのいとちのをよみのたるちか中は
うもわやう元来中の家を作つとよ
窮くと費しんと優まもそうれかぞくれ
てわちさるへぞ始るべき文源にに
辛卯月九の日のころ手代の京極の

とぞよく云へて其の
妻なるものをいくへ
おもへの〳〵さきなき
たるんさらし
われハ巫ゟ出でく
露をわたれはやく
花を便舟またくさ
それてのんなのかだハ
死ぬまで大きハ諸ありて
まさに我のとおりすし
こゝまて〳〵その我かまに
て河までかへいよと
かれらぞれましてを此
相おゝかの〳〵われさま
をも文その〳〵わりとつ
おにむすくるのか

秋より吉なる辻風が〳〵く心細さ
つまでいよゝく咲けるの稲さへ三四町
とゝけく嘆まくろ〳〵にも車に行かれ
ふ出入れたなるむらいさ花を〳〵して
せずれもかる〳〵なるひくにもちすま
なろかありけさくらつゞり結まろや
ると又門の方へそれもなく〳〵に前が
秋よと役を延ふとて〳〵いく漂うと
いと川ふみせりかんや魚代中のなか
らぬてとなくく〳〵にわかり枝技
ぶき枝のやまひへ花の〳〵ふ代はふのかせに

と紙ありて
別月よりれゆゑべきよまいら
とうしとありハ名に
と露ともるくとめ
より
ゆのんやとされり
忘れりしハまりし
青秋と送り　青秋
といつりハ便きとる
てありまさといのたま
いとえり秋とよふまへ
これわり孔みの作り
あなき秋の例なる
べし
や　謝礼精なり
安永　高砂亭銀鶏陽之亭号

非ゞ〳〵ごとし裂を捲のことくふ〳〵さ
てうれいたくてへく月のやつてる〳〵ひたなる
ありごとのむ名にわいふこ〳〵やりくたに
此様の葉風なりといくこそハとぞ
覚てしろやるの場元そこのあら
むごとれとどりつらうふうたに才とそこ
あへさ八つくろ〳〵のぶこと立ずにの
風のうじさろのかたちり行て錆く
のへ乃縁こ絵あせり辻風ハはよ
けむかれとどろことやいわうたけるり
非むてたるべきれのおいしるかきぞう

也此年治兼卜屈示
給ふ　即樋口富
小路
朱雀　拾芥云長安
南面皇城門是謂朱
雀
大極殿　同云朝堂院
正殿名云八省院是
又謂之敷大殿天子臨
朝即位謂司告朝所
或云號朝堂院
大學寮　紫毛生横二
條西南角池
民部有　縱西洞院
春日東北角也
一説ゆどに所をあに

たびはりーーー

さ　阿房宮賦　楚人一炬可憐焦土

樋口冨小路　樋口ハ中小路より東ゟ西にあれど
こゝをふたつにわけ
出来さりしハ一日ハきて宗
義ゟ小路をなすべし樋口
ハ五條の下也小路へ
とをりゆくやどれと
ありしなりあるさ
こゝにさりゆくことえ
安の中ハ風よ本繁
なりし下さかり
ありく
朕して　うり
うつくんかんや　を事

烏丸より東ハ平安城の初より延喜
の頃までの町なれば人ハ月ありさいと
く樋らんさゝげとあへり所とまる
ハ左よあまされく語とゝ下ゟのさ
りの日聴へと云ふりおり邪とおく
その人の中を良日と経川堂後家
ハこだたまもく鴨川よりハ北ハ冨
あよ殿されへ人の也所東へなりて
たち雲上よのとりくもて牛車と
見せもろ人の都南海の名所は
がひ京中の名園とハ雅まなりを

ろくハこの名所なりハせ
まつさこそ明かるし
いりさりし
かうらく　幸参りてそ
うさきあかりくる日よ
なかり
七条万寿　くまりを
あかれめかれのに達し
便儒　憍ハ法皇詳安
餘未須和名子ゆえ
うひさらりまきあり
數千人　叙ハ四ミ六代ヲ言
治兼　高倉院年號也
中御門京極　これ一条
ゐよろこまでハ北京極
とて西京極よがれとよ

其頃のばゝらるゝ我ゟう云く持法の
今の京に住寺所のもと更とかゝる凡。
くち帰せさんて條里とゝるにた
らば此ハ山おそひてたく南ハ海よ
近く下きかり殿の古つ外にハ岐
ひをしくく塩風にはげしく。
内裏ハ山代の中ちれバその御家多く
やと所くゆうらりて便宜かろうまで
うきゝ日とふとはち〳〵内かせにわ
つゞてとハひてびを其好きかゝ延き
にうれん桜し形き此ハ人ゝく送ろ

左傳是何伴也

僖公十六年

三年十月三日の辰巳の刻
三月里ゝ微震
十二月十三日
京ゝ地震
帝五八九二代里数八
三百八十

代の門ゐしへ
多の給と呼れ
勢に物語の
三百特小袖一
大食の法の
まはくもの
うちくちかく
人形と飛越の
とさせち向
矢とはせく
まる向よ立て
されば天下
くてはは鳴動
ね草ぶりて
どもあれ
る鶴とのこ

のんもあ海ば民の
くぶられ四年の
四うの
表に
孤ふ
へのこ
め別
うぶり
れ民と
てこ今の

車と月
られ九
まれて
て動ぶ
らりう
ちりて
ぶらいて
月の九夜
ハ
筋よ
愛物
筋の
紙金
月ば
乃山

らく知ぬ
しくくり
仇湯して
月てり
ら形す
らば完
このこ
れふ
湯と
むさ
ほた

[illegible]

[illegible]
論語に如我浮雲
なるべしとかいてあるなり
[illegible]
車のうしろにあり
衣冠布衣のうへに着
[illegible]
[illegible]
史記秦本紀韓子曰
堯舜采椽不剪
茨不削飯土塩飲土
形六韜帝堯王天下
之時金銀珠玉不飾

[illegible]
女男ばかりのこりぬ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

錦繍文綺不衣奇怪
珍異不翫好之奚栗
寶高佚之楽不聴宮
垣屋室不堊甍桷椽
楹不斲茅茨偏庭不
剪
棕のこりミ成かんとく
あのはぶりくみもへば棕
川の流多褒のなるうら
べし
養和 安徳天皇年号也
京の名侶ふれはげくも
みむりて固念よるのむ
米穀材木薪ちれ像ゟ
皆固念よりまうとん
のせ

叙名くぜいしろねれうのそころのしまて聖と
わまちうへ川にぞ死骸のつんゆり
どは路ふと書て縁とけもそうむ
ふかうさうあかそれかるらを数とまう
んとらくはえ寿月がかわくかそへなりき
きれは京の中一条より南九条より
れは京極より西朱雀より東のあ
ふその間ふでは四万二千三百あまり
きうかれや、ちぬ死ねうのも
あかくは京の白川の京の路くれの
地らずとらへくいらず深泥まべ

そのとやハみさかをとつぞり
あさ代 節義之事也 曲
礼云 君子雖貧不粥
祭器 雖寒不衣祭
服
野再ふとそり 論語
日 師摯之始 関雎之
乱 洋洋乎盈耳哉
ゑをを假痛にとまり
東方の亀せんちるさ
延寿之古語曰今日
過命亦減猶少水魚
是何楽謹勿解怠
衆どにえれく 列子云
齊有貪者常之於
城市乞見曰天下ノ厚

ちばいふはんや浅生七たし遊くへ
宗廟に法のをわが形の内まよ。
うろちあたえけるさまでぞをのまと
まのハおつぞよのあうれゆづうれう
知うりるのえ大たい戻年の深字
ねふううう傷りてそ祖つるのじば
山くのまてく川とうづ溜ろぶきえ
漆とのをせりぶきけくるあぶえあが
つそぱうほられく名小すまうのはらぐ
あの波よたぶよひ道ゆ錦ぶ川きど
とほごりせり泥や数のたより歩もて

邊於是

[illegible]

仁和寺隆曉法印 秦河字 八講田中下河原 一乃生死 [illegible]

又曰所未不生新羅國靈鷲寺僧不可思議釋曰秘密中秘釋者所字自說本不生[illegible]

元暦 後鳥羽院年号

荘子胠箱篇云天川竭而谷虛丘夷而淵實[illegible]

ちうの地震ハちうごい
ゆゑ[illegible]
ちうゆゑ
ゆゑ
ゆゑ

併たよりのむしんハ是を
くありと云よるへて
のみたと云ま存きより
仏法ハ宗ハれハかは
はせの乃くさ成るる
しれてみやくくと
ん乃はりそらく
ふとときへ一かきま
よのひきハ一りの人ヽ
ありけり侍つとき
てはなはなはへまれ
ありきり
いきろをそうれとと
ふくあるらずるいあれ
とよえまなちよあさ
りて

則人とするあぢきなさハ是を遁るゝ験⟨しるし⟩
ちる人ハかぎりもなくてくとくとうし
稲ハ月日のかきり年経しう後ハ
云の葉ようけくかひ出う不たし
そなべく在のさハきすの我身かく
桶とのかう〳〵あさつ様かくれと
しいらんや苗よりみれ稲よさく
かひくいてるや何もすおけくろ
そよべうひかりとのつくぢうるりど
して桜門のうるハ尻のものハぞ
くよ後らずすハあさどとめたり

ふくうろふとハあ
当後ハかきる後より
大よ〳〵のよさハたるさ
まめとくも人の己侍らく
れハまそあまりあら
とそや
うけさわり何とよう
うりあいけろみせう
さいふまでもあつめ
おどりまかりきるめ
なからいけきかわろ
ありき多わり
寿すれハ辱おほしと
荘子曰堯観乎華
封人曰嘻聖人請祝
聖人使聖人寿堯曰

なのふれあさつそ報のご何を歎⟨たん⟩と
あげく迷うるの進退⟨しんたい⟩やまてららば
ちさ折ようけく不れおのくたちへ
雀の旅⟨そう⟩の巣⟨そう⟩よやそかけるがおそし
りまけ忘うて当⟨とう⟩ろ家の流了⟨こゝのり⟩
とろりの八稲⟨わせ⟩をそぶき溝を取らく
屋内らいけく出入書⟨さい⟩の傍⟨どう⟩僕⟨くわい⟩れら
あるき後をろろやもあるの家の人
のぶひかつろ成けしき終也なりけん
命⟨めい⟩とるまさご現ても紀としらくかもしろ
ぶてりせつきはよ名⟨な⟩き⟨と⟩きハ近⟨ちか⟩く贈⟨おく⟩

辭使聖人富堯曰辭使聖人多男子堯曰辭封人曰壽富多男子人之所欲也汝独不欲何也堯曰多男子則多懼富則多事壽則多辱是三者非所以增德也

[illegible]

[illegible]

川辺にうゑたるこのみ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三義怖魔破悪[illegible]士

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出家将離生死乗於魔意故魔而名称魔又出家破身口七支之悪故云破悪上謂於諸仏乞法下於衆生乞食也

すまうり妻子をもたれずして[illegible]

古今集

世をいとふ心はあれどなかなかに身をすてかねつ人のこゝろの

目出山 路のおくに あそびまほしき

らくさいざさりごと父方の祖母の家とゆくゆくはかなくそむけのは縁のけぶりきえてゆくかなしきうりしかばゆきまよふとしのぼりて三十餘かりくらきに我ん一の庵と造りそめしは年比のふる事ふ十分が一なりかた居給ひて住ましへらくしくは庵を作り給ひてぼびまうつるとも行ありし出へぬ門ありつふらうさをつけを[illegible]やとりさせり雪ふり風をふせぐ

瑜伽 あくまでたふとき仏のた阿弥陀仏の秘密 阿弥陀仏 不動 つきさすとのよろこび 十三仏ハ不動 釈迦 文殊 普賢 地蔵 弥勒 薬師 観音 勢至 阿弥陀 阿閦 大日 虚空蔵也 往生要集 恵心僧都之 作なり ありがたき琵琶 今の世のこゝろなきものゝたねとこそいふよりもさやかに ともむかしへおもふ[illegible]

やうらくでしもあらばいかにかゞ見けきがたき常の浮き波の風もさはりしとてもおもひねとまつ山ほしへとゞめて見つゝ十年あまりのかりこもらんとまゝやよせりてきたるれば三十餘年なり。あるれくちがひよわのつくり見どりさ暮れさふりくれどならず十をしとむかくて家と母に住むそりぷりとよりまきかへのれ作りぞらこなりてつなりて不便なはれにはことりに秋となりかしも父の鶯よりくそくのきびしく秋せ

天地の世　荘子曰蟪蛄不知春秋

言をわすれむ　われむ
といふは二義ありうす
しむといふ一義まさ
愛しきといふ一義
ありまたは農をしきの
古今此序よりもとと
とあるをとといふ
と同しかるへし
ときくにとゞへるりや
ふらんとはへるまでれ
おもぶとところへ
とらへり
古今の序に恵ん

打あはのへと出かくつきめどとにけ
がことをとけりりりんによらんねるわ
らばやてくゆよ梅さんがきゆへちら
道の内りくらくの恋ゆるとつむあるなみ
うよ二季之車此力とむとむかわ文
不用まいにいふまに嶺山の奥あり
添とくして顔よの月がくしとさし
出る所名のとおしきちるあり
前御棚を作り中より其の深よ添
て水派泥の畫像と安置しなり
くらはりを添て眉なる光きよ

偈頌のうさは和云衛
然あるく字文字のさ
りとききのありへの恵
ん院より湖名のみこ
となりく小童の
蒲杉言神録
其の中は鏡を添へ像る
ここゆく森此像の白渡
と休しけりが偈頌れ
んよそきく
よひて寒にやさ羽
きろ名像の女は女む
ご本文此ら頌吟し
あひろさ撰集頌れ
あり

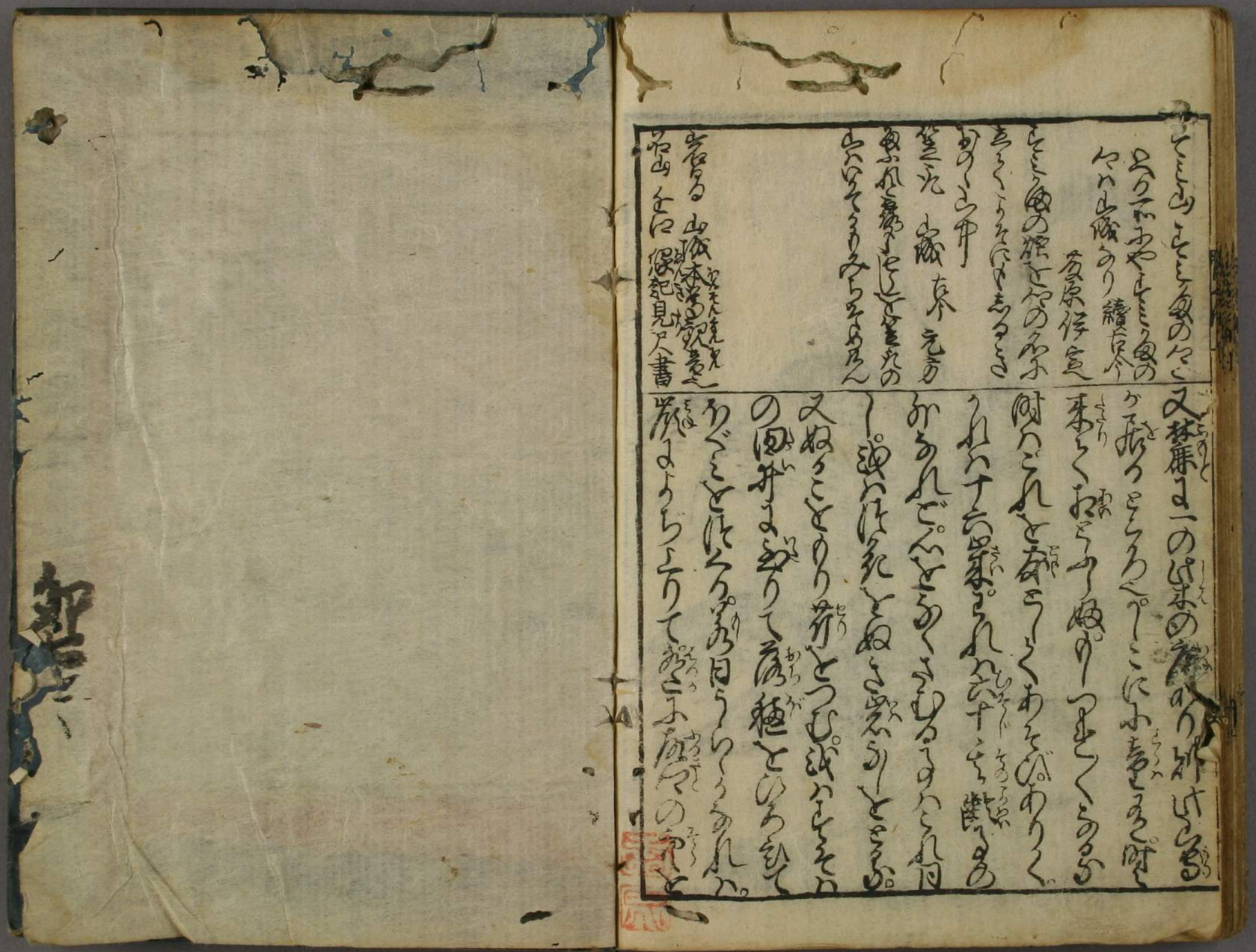
帳のさびくに葺留への木鍋の
像とゆけまりが深淵ののよにさ
さたみとり由くくろさは鉢三た
合掌をして和き愛染催生
来の葉とみの猫とのれたり像よ
筆琵琶を一張をたり川で
ゆかりごと浮ぶ琵琶これ之家に
そくるびのたえるゆるとをぞ
ぞくね乃床されたの堤に宗を
あけく髪よふつくきと流り出せう
揃のうたとびつわりられといはれ

潯陽の江頭夜送客楓葉荻花秋瑟瑟
白居易琵琶行

孟子自我養浩然之氣

人丸

俊成

家隆

定家